

日本文学研究

第三十四号

挽歌前史―「孝徳紀」造媛哀傷歌の周辺―……………加藤 有子（1）

人麻呂歌集略体歌訓釈考……………黒田 徹（12）

―巻十一の「正述心緒」部の歌数首について―

先坊の御息所（時平伝）考……………北村 章（24）

『発心集』「貧男好差図事」（巻第五・第六十話）考……………芝波田 好弘（43）

薩摩琵琶歌『小敦盛』について……………成田 守（57）

芭蕉と温泉……………萩原 恭男（68）

秋田在住期間・金子洋文著作目録稿……………須田 久美（79）

佐伯梅友先生を悼む……………鈴木 康之（86）

村上清一先生を悼む……………萩原 恭男（88）

追悼 田所 周先生……………鎌倉 芳信（90）

書 評 日吉盛幸編著『万葉集漢文漢字総索引』……………福田 俊昭（93）

辰巳正明著『悲劇の宰相長屋王』……………芝波田 好弘（95）

古代文学サロンと政治』……………

須田哲夫著『平安朝文学の展開』……………

―方法論の探究を含めて―……………秋山 虔（97）

一九九三年度修士論文・卒業論文題目（99） 一九九四年度開講科目（104） 一九九四年度大東文化

大学日本文学会記録（109） 学事報告（111） 計報（111） 一九九五年度日本文学会大会案内（111）

会費払込について（111） 大東文化大学日本文学会会則（112） 一九九四年度委員（112） 執筆者紹

介（112） 新刊紹介（表③）

書評

日吉盛幸編著

『万葉集漢文漢字総索引』

福田 俊昭

日吉盛幸氏が曩に『万葉集歌句漢字総索引』（桜楓社）と『万葉集表記別類句索引』（笠間書院）の二冊で、第十回上代文学会賞特別賞を受賞したことは周知の通りである。

此度、間髪を容れずして『万葉集漢文漢字総索引』（笠間書院）の大著を上梓されたことは快挙であり、氏が信念に基き、労作を完成させたことに敬意を表するものである。この『万葉集漢文漢字総索引』が上記二冊と一体のものであることは、書名・書名の字数（十文字）・集計表などの体裁からも窺え、完結篇の意味合いを含んでいるようである。

『万葉集漢文漢字総索引』は西本願寺本萬葉集（複製本、主婦の友社一九八四年刊）を底本とし、原文を改訂したのち、和歌における各句と、これにもなった異伝歌句とを除いた所謂漢文表記形態の題箋・巻号・部立・標目・題詞・序文・漢詩文・歌詞注記・左注・脚注及び目録を対象とした索引である。

この索引が漢字索引であるので、中国学の立場からこの索引を考察してみようと思う。漢籍索引を類別すると次の如くである。

(1) 語句索引 (2) 章句索引 (3) 名詞索引 (4) 篇目索引 (5) 総合関連事項索引 (6) 図鑑索引

(1)の語句索引は更に(イ)逐字索引と(ロ)語彙索引に細分することができる。(イ)の逐字索引は書籍に記載されている字句を全て取り挙げた索引で、最も綿密なものの一つである。逐字索引にはハーバード燕京大学から出版した『周易引得』『毛詩引得』や近年、香港の商務印書館から出版している「先秦兩漢古籍逐字索引叢刊」や日本の野間文史の『儀礼索引』などのように一字の字母で順序よく排列したものと、意味をもつ一字を含む最小単位の語の字母を順に排列したものがある。例えば、台湾の成文出版社から出版した「中法漢字研究所通檢叢刊」や斯波六郎主編の『文選索引』（上・下）、竹治貞夫編の『楚辭索引』がある。(ロ)の語彙索引は書籍から適宜単語を抽出して字母ごとに排列したものである。例えば、香坂順一編の『水滸伝語彙索引』や『金瓶梅詞話語彙索引』などがある。(2)の章句索引は文章や詩の一句の語頭の文字を字母とし、字母の画数の順に排列したもの

で、台湾の開明書店が出版した『十三經索引』や佐久節編の『漢詩大觀索引』などがある。(3)の名詞索引は人名や地名や書名などの名詞を対象に編纂したものである。例えば、人名索引には中華書局から出版した「二十四史」の人名索引や「地方志」の人名索引や「三國志地名索引」やハーバード燕京大学出版の『爾雅注疏引書引得』『毛詩注疏引書引得』や中津浜涉編の『初學記引書引得』などがある。(4)の篇目索引は書籍の編や章の題目を対象にした索引である。例えば、嚴可均編の『全上古三代秦漢三國六朝文』の後に附されている索引や史成編の『全唐詩索引』の「篇名索引」などがそれである。(5)の総合関連事項索引は書籍中の名詞、重要事項及び辭句を対象とした索引で、台湾の大通書局出版の『二十四史索引』や京都の禪文化研究所出版の『唐詩選 三體詩總索引』などがある。(6)の図鑑索引は書籍中の図を対象とした索引である。例えば、北京圖書館の編集による『中國歷代農具圖一覽表』などがあるが少ない。

日吉氏の『万葉集漢文漢字総索引』は(1)の逐字索引に相当する。索引の見出し字母を観ると、前出のハーバード燕京大学出版の『周

易引得』や『毛詩引得』は見出し字母を四角號碼の序列に従い、小さいものを前に、大きいものを後に排列している。そして当該文字を包括する語形は篇巻の順に列べている。中国の一字索引の多くはこの方式を採用しているが、我が国には四角號碼で漢字を排する習慣がないので、見出し字母は総画数の順に排列するものが多い。前出の『文選索引』や『楚辞索引』はこれに相当し、字母の総画数が同じ場合は『康熙字典』の部首順に従って排列している。当該文字を包括する語形の序列は、熟語でないものや当該文字が語頭にこない熟語で二例以下のものは篇巻の順に排列し、当該文字が語頭につく熟語で一例しか見えないものは、その第二字目の漢字の総画数の順に排列している。当該文字が語頭につく熟語で二例以上見えるものは見出しをつけて、その第二字目の漢字の総画数の順に排列している。そして当該文字が語頭にこない熟語で三例以上見えるものは、当該文字の前の漢字を見出し字母とする頃にまとめて熟語が収められていることを指示している。一方、日吉氏の『万葉集漢文漢字総索引』の見出し字母は諸橋轍次編の『大漢和辞典』（大修館書店）の「文字番号」に準拠した部首順に排

列している。そして当該文字を包括する語形の序列は一律に第二字目の部首順に排列している。第二字目の文字も同じ場合は第三字目の部首順によって排列されている。この手順で語形が終つてなお同じ場合は『国歌大観』番号順に排列している。従つて同じ熟語が集中するので、『万葉集』の題詞・左注の形式や類語句あるいは人名・地名などの固有名詞が一括りとなり、語彙索引も兼ねることができるのである。これは『文選索引』や『楚辞索引』の熟語の見出しに相当し、中国の逐字索引と異なるところである。又、和歌集特有の日本語の処理として、異伝注記語句のうち歌句を伴う場合は、その初句を平仮名で示し、見出し字母及び以降の漢字を部首順で排列したのち、国語辞典の五十音順に排列し、それでもなお同じ句が続く場合には『国歌大観』の番号順に排列している。このように『万葉集漢文漢字総索引』は『大漢和辞典』の部首順と国語辞典の五十音順と『国歌大観』の番号順の三方式を併用する工夫がなされている。このほかにもいろいろ工夫がなされているが、その一つに当該文字において底本に用いた西本願寺本以外の『万葉集』で校訂してある場合、その古写本名を即座に検索でき

るようになっていた。多くの索引は異同があつても底本に用いたテキストだけで索引が作られているので不便であった。日吉氏の索引の最大の意義は従来の正宗敦夫氏の『万葉集總索引』（平凡社）の弱点を単に補強したにとどまらず、正宗氏の『漢字篇』のみでは到底検索できない「篇外」の漢字をこの一冊で容易に捜し出すことができる点にある。

以上のような特徴をもつ『万葉集漢文漢字総索引』は万葉研究者のみならず関連分野の研究者に貢献することは必至であり、西本願寺本を底本とする限りこれを越える索引は望めそうもない。

（一九九四年三月 笠間書院刊 一一九四頁 一九〇〇円）